

萩原珈琲ってこんな会社

萩原珈琲ジャーナル



積極的”たいか”プロジェクト

さようなら、フルオート生豆精製機

震災前から活躍した大型機械を廃止しました。
理由は次の3つです。

- ①メンテナンスできる業者さんがいない
- ②投入時60kg麻袋を持ち上げる必要がある
- ③システム更新費用が高い

そこで、全自動ではあるけれど、システムに左右されないアナログな機械を導入しました。

60kgの生豆を持ち上げずに、「吸い上げ」ます。



在庫を視覚で管理

広いスペースが必要な大型プラントでしたが、精米機の仕組みを導入した小さな機械になりました。また、精選した生豆を保管する大きなサイロが16本ありましたが、必要な分だけを精選することで棚4つで済むようになりました。10kg単位で小分けにして保管します。これらを3袋重ねて積み、棚4段に積めると縦列で120kg。生産国別に棚配置すると、どの国の豆がどのぐらい減ったか、在庫計算ではなく見た目で管理ができます。

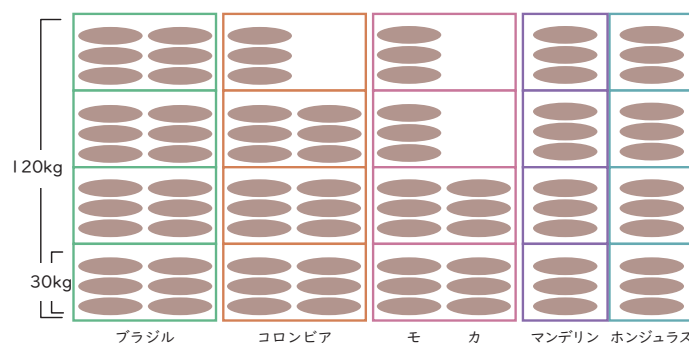
誰でもできる仕事に

計量・小分けの手間が増え、今まで月に数回だった精選の作業が毎日の作業になります。正直、とても非効率です。

でも、老若男女問わず誰にでもできる仕事に生まれ変わりました。

人手が必要となるアナログな機械への変換。だけど雇用が生まれます。現在働いていただいている先輩方の定年後の働く場所。働きたいけど働く場所がない範囲の人も働ける環境。高齢者、女性、障がい者を含む、あらゆる人の労働を可能にするための「積極的退化プロジェクト」です。

在庫の可視化



積極的”退化”プロジェクト
超短時間雇用の実現へ